

いずみさの昔と今 第355回

「南海電気鉄道の開通と発展の歴史」

泉佐野市では「鉄道のまち泉佐野」プロジェクトが進行しています。そこで、歴史館いずみさのでは、鉄道をテーマにした展示会を開催中です。

泉佐野市の沿岸部を走る南海電気鉄道は、今年創業140年を迎えました。日本の鉄道の始まりは、明治5（1872）年に官営鉄道として敷設された新橋〜横浜間です。関西では同7年に大阪〜神戸間が開通し、続いて京都・大津まで延伸されます。しかし、その後財政面の問題から、私鉄が鉄道事業を展開していくこととなります。

わが国初の純民間資本の鉄道会社である大阪堺間鉄道（同年に阪堺鉄道と改称）は、明治17（1884）年に設立されました。南海電気鉄道の前身であるこの会社は、主要都市である大阪と堺の間を結ぶことを目的に、難波〜大和川間で営業を開始し、同21年5月に堺まで全線開通します。明治22（1889）年には堺から和歌山を目指す紀泉鉄道会社が創立されます。紀泉鉄道会社は阪堺鉄道とは別名義の会社ですが、同じ首脳陣によって設立

されたもので、実質的には阪堺鉄道の路線延長と言えます。同26年に同時期に和歌山までの鉄道を願っていた紀阪鉄道とこの2社が合併し、紀摂鉄道が誕生します。その後、同27年には南陽鉄道、同28年には南海鉄道と社名を改めます。明治30（1897）年10月に堺駅から泉佐野駅（現泉佐野駅）間の路線を開通させた南海鉄道は、翌年に阪堺鉄道の事業を譲り受け、同36年に和歌山市までの区間で営業を開始します。こうして、難波〜和歌山市間が全通するのです。

さて、泉佐野市域で最も古いのが泉佐野駅（現泉佐野駅）です。先にも触れたように、泉佐野駅は明治30（1897）年10月に開業し、1ヵ月後に泉佐野駅から尾崎駅にかけての営業が開始されるまでの僅かな期間、和歌山方面の終着駅となっていました。その後、昭和23（1948）年4月に泉佐野市が誕生すると、駅の名称も今と同じ泉佐野駅となります。その後、大正5（1916）年5月に鶴原駅、昭和17（1942）年2月に羽倉崎駅が開業します。羽倉崎駅は旧陸軍の佐野飛行場を建設する

際の人員や建設機材を輸送するための開設でした。昭和27年4月には井原里駅が開業します。近隣に瓦屋・湊・中庄といった古くからの住区があり、ワイヤーロープなど鋼線関係の工場が点在したことが背景にあるようです。

平成6（1994）年に関西国際空港が開港すると、南海空港線が開通します。連絡橋手前のりんくうタウン駅、空港のターミナルビルに直結している関西空港駅（東北部分が泉佐野市）が6月に開業し、現在のかたちとなりました。

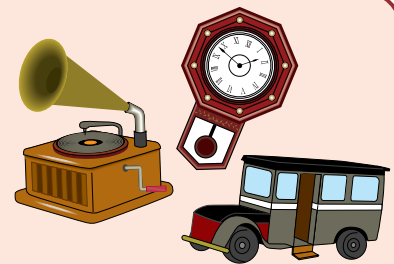
この他南海電鉄の関連施設として、羽倉崎に車両基地があります。昭和30（1955）年に竣工されたこの基地では、現在車両の検査、車輪転削、主電動機・クレーラーの取替などの作業が行われています。

レイクアルスタープラザ・
カワサキ歴史館いずみさの
☎469-7140 Fax469-7141
休館日 月曜日、毎月最終木曜日（いずれも祝日の場合は開館し、その翌日が休館）
開館時間
午前9時〜午後5時
（入館は午後4時30分まで）
入館料 無料

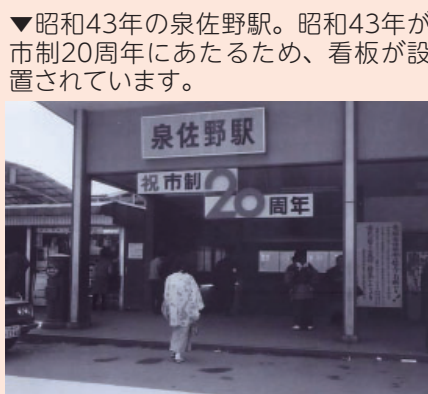
泉佐野 レトロ タイムスリップ

泉佐野市の昭和頃の懐かしい写真を紹介します。

⑬駅シリーズ 南海泉佐野駅



◀ 泉佐野駅の地下駅の工事中。地下駅舎は昭和40年10月から営業を開始しました。



▼ 昭和43年の泉佐野駅。昭和43年が市制20周年にあたるため、看板が設置されています。



◀ 現在の泉佐野駅の様子。駅舎が高架化し、地下駅舎はなくなりました。

泉佐野市の懐かしい写真は「泉佐野市デジタルアーカイブ (<https://adeac.jp/izumisano-city/top/>)」でも公開中! !